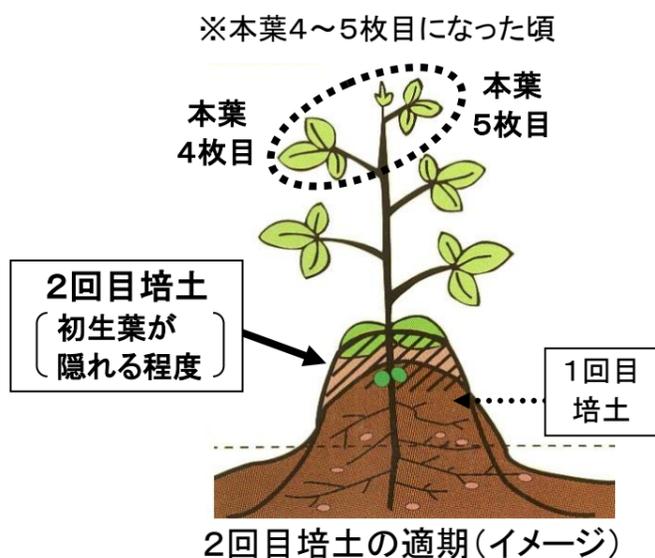


大豆栽培管理情報（第4号）

平成29年6月30日
アルプス農協管内農業技術者協議会

1. 培土の実施 ～ 2回目の培土は、晴れ間を見て確実に実施 ～

- ・2回目培土の時期は、播種後30～35日頃、1回目培土の約10日後で本葉が4～5枚になった頃が目安です。
- ・培土の効果を高めるため、初生葉が隠れる程度に、株元までしっかり土をかけましょう。
- ・土の上がりを良くするため、できるだけ圃場が乾いている時に培土作業を行いましょう。
- ・培土作業後は、その日のうちに培土でできた溝と額縁排水溝や排水口を確実に連結し、水が溜まらないようにしましょう。



2. 雑草防除 ～ 難防除雑草を増やさない ～

- ・培土後も雑草が多い場合は、雑草の種類や葉齢に応じ、茎葉処理除草剤等を適切に使用しましょう。
- ・特に、難防除雑草については早期発見に努め、発見したら直ちに手取り除草や除草剤散布などで、種子ができる前に確実に防除し、増加を防ぎましょう。

【除草剤の散布の目安】

	除草剤名	使用時期	適用雑草	10a当り使用量	使用回数
選択性	ポルトフロアブル	雑草生育期(ただし、収穫30日前まで)	1年生イネ科雑草 (イネ科雑草3～10葉期)	200～300mℓ (水100ℓ当り)	1回
	大豆バサグラン液剤(注1)	雑草生育初期～6葉期 大豆2葉期～開花前まで ただし、収穫45日前まで	1年生雑草 (イネ科を除く)	100～150mℓ (水100ℓ当り)	1回
非選択性(注2)	バスタ液剤	雑草生育期 畦間処理・株間処理(本葉5葉期以降) ただし、収穫28日前まで	1年生雑草	300～500mℓ (水100ℓ当り)	グルホシネート及び グルホシネートP 3回以内
	ザクサ液剤	雑草生育期 畦間処理(ただし、収穫28日前まで)	1年生雑草	300～500mℓ (水100ℓ当り)	グルホシネート及び グルホシネートP 3回以内

注1:大豆バサグラン液剤は、著しい高温が続く場合に使用すると薬害が出る恐れがあるため、使用を避ける。

また、湿害等により大豆の生育が不良な場合や二重散布したような部分で薬害を生じることがあるので注意する。

注2:非選択性除草剤は、かかった植物を枯らすので、大豆や周辺作物への飛散に十分注意して散布する。

アルプス農協管内で確認された主な難防除雑草



※大豆バサグラン液剤は難防除雑草に対して除草効果が劣ります。発生が見られたら、非選択性除草剤を散布し、確実に防除しましょう。

3. 病害虫防除

- ・ウコンノメイガの幼虫による葉巻が見られたら、遅れずに防除しましょう。
- ・シュウレイについては、7月下旬に葉焼病を予防するための防除を実施しましょう。

【随時防除薬剤】

	液剤	粉剤
ウコンノメイガ	プレバソンフロアブル5 4000倍・使用液量:150ℓ/10a	サイアノックス粉剤 4kg/10a
葉焼病	Zボルドー 500倍・使用液量150ℓ/10a	撒粉ボルドー粉剤DL 4kg/10a

注:防除の際は、隣接地の他作物への農薬飛散に留意しましょう!